

### 第3回「新聞記者とブログ」

2007年5月1日

毎日新聞東京本社編集局次長 磯野彰彦

[akihiko.isono@mbx.mainichi.co.jp](mailto:akihiko.isono@mbx.mainichi.co.jp)

- ・ 開始 2005年3月に開幕した愛・地球博（愛知万博）に合わせてブログ「上昇気流なごや」<http://www.maing.co.jp/maimai/isono/>を毎日新聞中部本社のホームページ上で開設。同年9月の万博閉幕後も継続し、06年4月の東京転勤に伴い休止。
- ・ 2006年8月、毎日新聞の愛読者双方向コミュニティサイト「まいまいクラブ」<https://my-mai.mainichi.co.jp/mymai/>上で新たなブログとして「竹橋発」[https://my-mai.mainichi.co.jp/mymai/modules/weblog\\_isono108/](https://my-mai.mainichi.co.jp/mymai/modules/weblog_isono108/)を再開。
- ・ 経緯  
04年9月にMSN毎日インタラクティブ上で開設した「理系白書ブログ」<http://rikei.spaces.live.com/>に触発され、万博取材班の「取材日記」ができないかと検討。取材班が多忙のため、中部本社報道部長だった私が始めることになった。紙面で社告（「中部地方の報道機関が本格的に開設する初のブログ」）を掲載した。
- ・ その時点で著名な記者ブログとしては、北海道新聞・高田昌幸記者の「ニュースの現場で考えること」、徳島新聞・藤代裕之記者（その後、退社）の「ガ島通信」、時事通信・湯川鶴章編集委員の「ネットは新聞を殺すのかblog」などがあった。  
参考図書＝野良舎刊「ブログ・ジャーナリズム 300万人のメディア」、  
NTT出版刊「ネットは新聞を殺すのか 変貌するマスメディア」
- ・ なぜ実名記者ブログなのか  
毎日新聞の「署名多用化」（1996年春実施）方針にも沿ったものであること。既存のマスメディアに対する批判、不信感（例えば「マスゴミ」批判）に対抗するには実名であるほうが有効なこと、等々。
- ・ ブログを書き続ける理由  
第一に書くことが好きであること。一線を外れ、紙面上で書く機会が激減し、欲求不満状態。  
第二に新聞に対する誤解を解きたい。誤解が誤解を呼び、ネット上でメディア批判が渦巻いている。参考図書＝オークラ出版刊「ネットVSマスゴミ！大戦争の真実」。

公式見解では彼らは納得しない。時事の湯川氏は私のブログを「広報活動としての記者ブログ」と論評、「読者とかけ離れた存在になってしまった新聞をもう一度読者の側に立たせるためには読者との対話が不可欠」と指摘した。

第三に本人が「目立ちがり屋」であること。顔写真まで掲載した。

- 基本的にデスクチェックはない。中部時代は上司が毎朝、心配しながらチェックした。
- 心がけていること  
丁寧な言葉遣い。批判を受けたまま放置しない。他メディア批判は原則としてしない。粘着系には粘着系で対応。
- 記者ブログの例  
産経イザ、  
朝日アスパラクラブ、  
読売オンライン、  
週刊朝日編集長、同記者、  
ブログ時評、  
団藤保晴の記者コラム、  
猫手企画@新聞屋・・・